２０２４年7月２４日（水）

老球の細道８１５号

ああ・・・・中体連

会津バスケットボール協会　　室　井　冨　仁

今、福島市で県中学校バスケットボール大会（県中体連）が開催されている。中体連は世の中の少子化や働き方改革などと連動しながら今後色々な問題が浮上してくるだろう。

朝日新聞（6月１９日版）によると、全国中学校体育大会（全中）が２０２７年度から縮減され９競技が取りやめになる。水泳、ハンドボール、相撲、スキー、スケート、アイスホッケーなどが対象になるという。ここにはバスケットボールが入っていないが、文科省が中学校の部活動を将来廃止する予定でいるので、いずれ姿を消すのかもしれない。

日本中体連が縮減を進める背景には、少子化で部の設置率が低くなっているほか、部活動の地域移行の推進に伴って地域クラブの大会参入が進み、学校の部の全国大会としての意義が薄れてきたことや、夏季競技の暑熱対策が不可欠なこと、大会運営に関わる教員の負担軽減などがある。

私の周辺では中学校の部活動と地域のクラブチームとの関係が問題になっている。今回の県大会が終了すると移籍登録が活発になるという。クラブチームに移籍登録をする者と中学校の部活動で登録する者の２つのパターンに分かれる。中学校に熱心な指導者がいない学校の生徒達はクラブチームに所属し、クラブチームの練習のない日は学校の部活動に参加し、それ以外はクラブチームで練習、試合に参加するという複雑な状況が現れる。

数年前から中学校で JBA 主催の「U―１５バスケットボール選手権大会（通称ジュニアウインターカップ)」が開催されるようになった。中学生の中体連終了後から高校入学までのバスケット空白期間を埋めるための方策であろう。この大会の参加資格についてもクラブチームと中体連チームの問題が浮上している。私だけが感じているのかもしれない。

一つは、中学３年生でクラブチームに在籍していない生徒が、自分の「中学校チーム」で参加できないこと。３年生は高校受験があるので受験勉強に集中させる。クラブチームで参加する３年生は学校が関与しないので参加しても良いという矛盾。二つ目は、大会が「U―１５ウインターカップ県予選会」と銘を打っているのに、会津地区などの地区予選が「U-14 中学校チーム」の大会になっていること。三つ目は、U-15 ウインターカップ全国大会の予選が「U―１４中学校地区大会」、「U-14 中学校県大会」、「クラブチーム（オープン参加）＋U―１４県大会優勝チームの県大会」と３回も行われている。しかも「U―１４中学校県大会」の優勝チーム１チームしかクラブチームを含んだ最終予選に参加できない。その根拠がわからない。U-14 よりクラブチームが強いなど試合は戦ってみないとわからないのに。

独断と偏見で改善点をあげてみる。中学３年生も希望すれば自中学チームで参加できる。クラブチームと中体連チーム（３年生も可）を含んだ地区大会予選を行い、勝ち上がった各地区代表で県大会を行い、優勝チームが U-15 ウインターカップ県代表になる。予選が２回で終了し、中学校教員の働き方改革にも良いのではないかと思う。老害の戯言である。